

事務事業ID		2445		令和01年度		事務事業マネジメントシート		部長	課長	係長	担当者
事務事業名		文化財啓発事業		担当課	教育委員会教育部生涯学習課						
政策体系	政策	2	豊かな心を育むまちづくり		担当係	文化財係					
	施策	4	文化財の保護と芸術文化の振興		事業区分	事業期間	～				
	基本事業	1	文化財の保護と保存			市単独事業・国県補助事業		市単独事業			
予算科目		会計	款	項	目	大事業		実施形態			
		一般会計	10	5	3	文化財保護費		直営			

PLAN (計画)

目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	地域固有の歴史的文化的遺産や優れた芸術文化とふれあうことで、ふるさとを愛し、心豊かな生活を送ることができる		
		基本事業の目的	貴重な文化財や地域固有の伝統文化を大切に守り、活かし、伝えることで、地域を愛する心を育むとともに、地域の一体感や誇りを醸成し、地域コミュニティの維持・再生に結び付けます。さらに、関係機関と連携し、史跡名勝等にテーマ性を持たせたルートづくりを進め、観光資源としての整備を図		
	中間	①対象 (誰、何に対して行うか)	1. 文化財を活用した事業の実施件数 2. 活用事業への参加者数	①意図 (どのようになることを目指すか)	1. 伊達市指定文化財の価値を顕在化させ、活用を図る。 2. 伊達市内の指定文化財の本質的価値を理解し、伊達市固有の歴史に触れる。
	初期	②①になるために必要な状態	1. 伊達市指定文化財の価値が顕在化したものから活用を図る。 2. 伊達市固有の歴史に触れることにより、ふるさとを愛する心や地域の一体感を育む。		

区分	指標名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度	
				指標	活動指標	文化財を活用した事業への参加者数	人	目標値	500	500
実績値	575	1,617	926							
目標値										
実績値										
目標値										
実績値										

DO (実施)

活動・アウトプット	事業概要	・旧亀岡家住宅のライトアップ事業の実施 ・文化財に関連するパンフレット等の作成
	主な活動	令和01年度実績 (実施した主な活動) ・旧亀岡家住宅のライトアップ事業の実施

現状把握

現状・インプット	事務事業を開始した理由		市民及び市外からの来訪者が伊達市の歴史に触れ、理解を深めるため市内に所在する指定文化財の説明版及び案内サイン版等を設置、パンフレットの作成進めてきた事業となる。また、旧亀岡家住宅の国重要文化財指定を受け、夜間ライトアップの事業を進めてきた。							
	根拠法令・要綱等		伊達市保原歴史文化資料館事業運営要項	関連する個別計画	伊達市立博物館整備等基本構想					
	事務事業の現状 (「対象」など事業開始からの変化)		指定文化財の説明版及び案内サイン版は、今後、他の関連事業との整理を踏まえ、統一デザインによる推進を図る必要があるため調整を要する。旧亀岡家住宅のライトアップ事業については、期間中700名程度の来館者があり、一定の効果が認められることから今後も継続して実施する。							
	事業費	財源内訳	年度	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度	
			単位	(実績)	(実績)	(実績)	(予算)	(計画)	(計画)	
国庫支出金			千円	0	0	0	0	0	0	
都道府県支出金			千円	0	0	0	0	0	0	
地方債			千円	0	0	0	0	0	0	
その他			千円	0	0	0	0	0	0	
一般財源	千円	322	401	247	0	0	0			
事業費計		千円	322	401	247	0	0	0		

事務事業 ID	2445	事務事業名	文化財啓発事業	所属課	教育委員会教育部生涯学習課
---------	------	-------	---------	-----	---------------

【CHECK/ACTION（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 (目指すべき状態への進捗度)	国重要文化財「旧亀岡家住宅」のライトアップ等のイベントをとおして文化財に触れる機会が増加しており一定の成果は認められる。しかし、行政及び民間が一体となり地域振興を核とした文化財活用事業を進めていくためには、お互いの協力体制の強化を図る必要があり、現段階においては、この状況を構築するには至っていない。
課題	地域の一体感や誇りを醸成し、地域コミュニティの維持・再生に結び付けるためには、地域との連携が重要な課題であり、連携強化の手法を構築する必要がある。また、これと並行して文化財の価値や重要性を行政・民間ともに共有するためにも各文化財の価値の発信に努めていく必要がある。
対策	本事業の核となる各文化財の価値を明らかにし、パンフレットの作成、各種事業・イベント等と連携させながら発信していくことが重要なものと考えられる。

【評価結果】

総合評価	統合	今後の事業全体の方向性やその内容	旧亀岡家住宅の活用を図るため実施してきたライトアップ事業も定着化したことから歴史資料館管理運営事業と統合を図ることとした。 また、文化財に関連する説明版・サイン版については、総括的な文化財活用の方針と連動させることとし文化財保護事業及び史跡整備保存活用事業へと統合を図ることとした。
------	----	------------------	--

事務事業ID		2178		令和01年度		事務事業マネジメントシート		部長	課長	係長	担当者	
事務事業名		文化財維持修繕事業		担当課	教育委員会教育部生涯学習課							
政策体系	政策	2	豊かな心を育むまちづくり		担当係	文化財係						
	施策	4	文化財の保護と芸術文化の振興		事業期間	平成23年度 ~ 令和05年度						
	基本事業	1	文化財の保護と保存		事業区分	市単独事業・国県補助事業		市単独事業				
予算科目		会計	款	項	目	大事業		実施形態				直営
		一般会計	10	5	3	文化財保護費						

PLAN (計画)

目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	地域固有の歴史的文化的遺産や優れた芸術文化とふれあうことで、ふるさとを愛し、心豊かな生活を送ることができる								
		基本事業の目的	貴重な文化財や地域固有の伝統文化を大切に守り、活かし、伝えることで、地域を愛する心を育むとともに、地域の一体感や誇りを醸成し、地域コミュニティの維持・再生に結び付けます。さらに、関係機関と連携し、史跡名勝等にテーマ性を持たせたルートづくりを進め、観光資源としての整備を図ります。								
	中間	①対象 (誰、何に対して行うか)	東日本大震災で被災した指定文化財	①意図 (どのようになることを目指すか)	被災した文化財を復旧させ後世に継承する。						
	初期	②①になるために必要な状態	復旧した文化財数								

区分	指標名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
				アウトプット指標	保存・管理に関わった文化財数	件	目標値	1	1
活動指標	被災文化財修繕の進捗率	件	目標値	15	18	21	24	27	30
			実績値	15	18	21	24		
			目標値						
			実績値						

DO (実施)

活動・アウトプット	事業概要	東日本大震災により被災した文化財の修理(仏像33体の修繕：令和5年度に終了見込み)								
	主な活動	令和01年度実績 (実施した主な活動) 被災した文化財所有者に対し補助金を交付する。								

現状把握

現状・インプット	事務事業を開始した理由		東日本大震災では市内の多くの文化財が被害を受けた。これらを健全に維持し後世に継承するため必要な修理を実施する。								
	根拠法令・要綱等		伊達市文化財保護条例 伊達市文化財保存事業補助金等の交付等に関する要綱			関連する個別計画					
	事務事業の現状 (「対象」など事業開始からの変化)		大部分の被災文化財は震災直後からの復旧、修理作業により概ね現状復旧や応急処置は終了しているが、今だ手つかずの状態のものもある。 また東日本豪雨により被災した文化財 (5件：伊達市指定文化財)、文化財保管施設 (2件) の復旧措置が今後必要となる。								
	事業費	財源内訳	年度	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度		
			単位	(実績)	(実績)	(実績)	(予算)	(計画)	(計画)		
国庫支出金			千円	0	0	0	0	0	0		
都道府県支出金			千円	0	0	0	0	0	0		
地方債			千円	0	0	0	0	0	0		
その他	千円	0	0	0	0	0	0				
一般財源	千円	0	500	500	500	500	500				
事業費計	千円	0	500	500	500	500	500				

事務事業ID	2178	事務事業名	文化財維持修繕事業	所属課	教育委員会教育部生涯学習課
--------	------	-------	-----------	-----	---------------

【CHECK/ACTION（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 (目指すべき状態への進捗度)	●被災文化財のうち唯一未修理である市指定「鬼石観音堂の三十三観音」については、平成24年度から本格的修繕を順次進めている。年次計画どおり修繕は進んでおり大きな問題はない。
課題	●事業主体が補助事業者(文化財所有者)であるため、進捗の度合いが所有者の都合に左右されやすい。
対策	●所有者と連絡を密にして課題等の状況把握をこまめに行い、問題解決に向け必要に応じ指導を行う。

【評価結果】

総合評価	維持	今後の事業全体の方向性やその内容	東日本大震災により被災した文化財の修繕は、計画的に進んでいる。今後は、本年度発生した東日本豪雨により被災した文化財の修繕対応を検討していく必要がある。
------	----	------------------	---

事務事業ID
1444

令和01年度

事務事業マネジメントシート

部長	課長	係長	担当者

事務事業名		文化財保護事業			担当課	教育委員会教育部生涯学習課			
政策体系	政策	2	豊かな心を育むまちづくり			担当係	文化財係		
	施策	4	文化財の保護と芸術文化の振興			事業区分	事業期間	～	
	基本事業	1	文化財の保護と保存				市単独事業・国県補助事業	国県補助事業	
予算科目		会計	款	項	目	大事業			
		一般会計	10	5	3	文化財保護費			
					実施形態	直営			

PLAN (計画)

目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	地域固有の歴史的文化的遺産や優れた芸術文化とふれあうことで、ふるさとを愛し、心豊かな生活を送ることができる		
		基本事業の目的	貴重な文化財や地域固有の伝統文化を大切に守り、活かし、伝えることで、地域を愛する心を育むとともに、地域の一体感や誇りを醸成し、地域コミュニティの維持・再生に結び付けます。さらに、関係機関と連携し、史跡名勝等にテーマ性を持たせたルートづくりを進め、観光資源としての整備を図ります。		
	中間	①対象 (誰、何に対して行うか)	1. 伊達市内の指定文化財件数 2. 伊達市の文化財に親しんだ市民の割合	①意図 (どのようになることを目指すか)	1. 伊達市指定文化財の価値を顕在化させる。 2. 伊達市内の指定文化財の本質的価値を理解し、伊達市固有の歴史に触れる。
	初期	②①になるために必要な状態	1. 伊達市指定文化財の価値を顕在化させ、その価値によっては、市固有の歴史観のみならず福島県や国の歴史観を示すものもあることから伊達市指定から福島県指定・国指定化等を図る 2. 伊達市固有の歴史に触れることにより、ふるさとを愛する心や地域の一体感を育む。		

区分	指標名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
				活動指標	市内の市指定文化財 (合計)	件	目標値 実績値	118 119	120 116
アウトプット指標	歴史文化資料館入館者数	人	目標値 実績値	6,500	6,500	6,500	6,500	7,000	7,000
				5,266	6,684	4,600			
			目標値 実績値						

DO (実施)

活動・アウトプット	事業概要	指定文化財等の保護・管理・記録を行う。 指定文化財保持団体の育成、指定文化財の管理及び修繕の補助。 H25年度からは、泉原小学校を活用し、国登録文化財に指定されている「伊達地方の養蚕道具」(2,530点)の整理作業を進めてきた。平成30年度には、「伊達の蚕種製造及び養蚕・製糸関連用具」として国の重要有形民俗文化財の指定を受けている。
	主な活動	令和01年度実績 (実施した主な活動) 市指定文化財保持団体の育成、指定文化財の管理及び修繕の補助。 指定文化財等の保護・管理・記録。 ・伊達市に残る養蚕関係用具については、今後、公開活用のための一括管理を目指し整理作業を進める。 ・東日本豪雨により被災した民具についての整理作業を進める。

現状把握

現状・インプット	事務事業を開始した理由	文化財保護法制定 (昭和25年) を契機に各自治体固有の歴史観を保護することを目的に全国的に進められてきた事業である。本市についてもこの法令に基づき伊達市文化財保護条例を制定し、文化財保護行政を推進している。							
	根拠法令・要綱等	伊達市文化財保護条例 伊達市文化財保存補助金等の交付等に関する要綱	関連する個別計画						
	事務事業の現状 (「対象」など事業開始からの変化)	伊達市全体として文化財の一括管理を実施することが望ましいが、合併以前の旧町単位で文化財の保管を行っているのが現状である。このような中、平成20年に養蚕関係用具が国の登録文化財となり、平成25年度からは、養蚕用具の一括管理及び整理作業を進めてきた。平成30年度には国の重要有形民俗文化財の指定を受けている。今後は、養蚕用具の整理作業と並行し、東日本豪雨により被災した民具の整理作業を進める。							
	事業費	財源内訳	年度	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
		単位	(実績)	(実績)	(実績)	(予算)	(計画)	(計画)	
	国庫支出金	千円	3,000	0	0	0	0	0	
	都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	13,068	0	0	
	一般財源	千円	19,734	23,338	22,818	10,011	20,883	20,883	
	事業費計	千円	22,734	23,338	22,818	23,079	20,883	20,883	

事務事業ID	1444	事務事業名	文化財保護事業	所属課	教育委員会教育部生涯学習課
--------	------	-------	---------	-----	---------------

【CHECK/ACTION（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 (目指すべき状態への進捗度)	<ul style="list-style-type: none"> ●国重要有形民俗文化財の指定を目指し整理を進めていた養蚕関係用具が3月に国指定となった。 ●八幡神社本殿解体修復をはじめとする文化財修理に対する補助件数も増加し、修理を経て今後も健全に保存される文化財数の増加に繋がった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●補助金交付団体数が例年一定数を保っていることから見ても、修理を必要とし、今後の保存にも支障をきたす恐れがある文化財が常在していると判断できる。これらについて、いち早く保護保存の措置をとることが急務である。 ●保護保存の措置が取られた文化財数については着実に成果が出つつあるが、今後は市民の文化財に対する関心を更に高めることが課題である。
対策	<ul style="list-style-type: none"> ●国文化財の新規指定が大きく報じられたこともあり、文化財や歴史に対する市民の興味や関心が高まりつつある。これを好機と捉え、企画展や各種広報物により文化財の価値などについて更に周知を図る。 ●普段から情報収集に努め、文化財保護保存の要望に対し迅速に対応できるよう努める。

【評価結果】

総合評価	維持	今後の事業全体の方向性やその内容	資料の整理業務等も進んできており、養蚕関係用具は、国重要文化財の指定を受けた。今後は、これらの資料の適切な管理を進めるとともに東日本豪雨により被災した資料等の整理・保管を進める必要がある。
------	----	------------------	--

事務事業ID
1447

令和01年度

事務事業マネジメントシート

部長	課長	係長	担当者

事務事業名		埋蔵文化財保護事業			担当課	教育委員会教育部生涯学習課			
政策体系	政策	2	豊かな心を育むまちづくり			担当係	文化財係		
	施策	4	文化財の保護と芸術文化の振興			事業期間	～		
	基本事業	1	文化財の保護と保存				事業区分	市単独事業・国庫補助事業	
予算科目	会計	款	項	目	大事業				
	一般会計	10	5	3	埋蔵文化財保護費（補助）				
						実施形態	直営		

PLAN（計画）

目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	地域固有の歴史的文化的遺産や優れた芸術文化とふれあうことで、ふるさとを愛し、心豊かな生活を送ることができる						
		基本事業の目的	貴重な文化財や地域固有の伝統文化を大切に守り、活かし、伝えることで、地域を愛する心を育むとともに、地域の一体感や誇りを醸成し、地域コミュニティの維持・再生に結び付けます。さらに、関係機関と連携し、史跡名勝等にテーマ性を持たせたルートづくりを進め、観光資源としての整備を図ります。						
	中間	①対象（誰、何に対して行うか）	伊達市内の埋蔵文化財	①意図（どのようになることを目指すか）	伊達市内の埋蔵文化財の適正な管理に努め、保護措置を講ずる。				
	初期	②①になるために必要な状態	埋蔵文化財が適切に保護されている。						

区分	指標名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
				活動指標	市内の国指定史跡数	件	目標値	2	3
活動指標	開発等に係る調査件数	件	目標値	15	15	15	15	15	15
			実績値	20	22	15			
			目標値						
			実績値						

DO（実施）

活動・アウトプット	事業概要	「埋蔵文化財包蔵地」の調査及び保護・保存 ・国史跡化を目的とした梁川城跡の総合調査報告書の作成業務（国庫補助事業） ・その他開発にかかわる調査（霊山道路関連）							
	主な活動	令和01年度実績（実施した主な活動） 開発に伴う失われる恐れのある遺跡の事前調査（試掘調査）。 国史跡化を目的とした堂庭遺跡（梁川八幡宮）の内容確認調査を実施。 堂庭遺跡の現地説明会の開催。							

現状把握

現状・インプット	事務事業を開始した理由	文化財保護法制定（昭和25年）を契機に全国的に実施されてきた文化財保護業務となる。本市についても文化財保護法に基づき開発等により失われる恐れのある埋蔵文化財については、発掘調査を実施し、記録保存の対応を実施している。							
	根拠法令・要綱等	文化財保護法 福島県文化財保護条例 伊達市文化財保護条例	関連する個別計画			史跡及び名勝霊山 保存管理計画書 史跡宮脇庵寺跡 保存活用計画書			
	事務事業の現状（「対象」など事業開始からの変化）	東日本大震災等の影響による開発件数の増加に伴い、対応件数は増加傾向にある。また、伊達市固有の歴史を色濃く残す梁川城跡などの遺跡については、国史跡化を図るための内容確認調査を実施している。							
	事業費	財源内訳	年度	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
			単位	(実績)	(実績)	(実績)	(予算)	(計画)	(計画)
国庫支出金			千円	3,570	2,300	3,550	4,000	4,000	4,000
都道府県支出金			千円	0	0	0	0	0	0
地方債			千円	0	0	0	0	0	0
その他	千円	0	0	0	0	0	0		
一般財源	千円	14,946	15,967	12,615	16,382	18,571	18,571		
事業費計	千円	18,516	18,267	16,165	20,382	22,571	22,571		

事務事業 ID	1447	事務事業名	埋蔵文化財保護事業	所属課	教育委員会教育部生涯学習課
---------	------	-------	-----------	-----	---------------

【CHECK/ACTION（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 (目指すべき状態への進捗度)	梁川城跡については、国史跡化を目的とした調査及び関連事務は概ね終了している状況となっている。今後、国史跡化を目的に調査を進めている堂庭遺跡等についても概ね計画通りに作業が進められている。今後は、史跡整備保存活用事業との連携を深め最終目標へ近づけていく作業が必要となる。
課題	今後、史跡指定を目指す遺跡もあることから、遺跡の価値や重要性について広く地域へ発信していく必要がある。
対策	遺跡の発掘調査に関する現地説明会の開催や、資料館での展示、歴史講演会等をとおして伊達市の魅力ある歴史を継続的に発信する。

【評価結果】

総合評価	維持	今後の事業全体の方向性やその内容	本年度、伊達氏梁川遺跡群が国の史跡として指定を受けた。今後は、堂庭遺跡(梁川八幡宮)、岩地蔵遺跡の追加指定を目指し継続的に調査を行う必要がある。
------	----	------------------	--

事務事業ID		1473		令和01年度		事務事業マネジメントシート		部長	課長	係長	担当者
事務事業名		歴史資料館管理運営事業		担当課	教育委員会教育部生涯学習課						
政策体系	政策	2	豊かな心を育むまちづくり		担当係	文化財係					
	施策	4	文化財の保護と芸術文化の振興		事業期間	～					
	基本事業	1	文化財の保護と保存		事業区分	市単独事業・国県補助事業			市単独事業		
予算科目	会計	款	項	目		実施形態		直営			
		一般会計	10	5	7	歴史資料館管理運営費					

PLAN (計画)

目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	地域固有の歴史的文化的遺産や優れた芸術文化とふれあうことで、ふるさとを愛し、心豊かな生活を送ることができる								
		基本事業の目的	貴重な文化財や地域固有の伝統文化を大切に守り、活かし、伝えることで、地域を愛する心を育むとともに、地域の一体感や誇りを醸成し、地域コミュニティの維持・再生に結び付けます。さらに、関係機関と連携し、史跡名勝等にテーマ性を持たせたルートづくりを進め、観光資源としての整備を図ります。								
	中間	①対象 (誰、何に対して行うか)	市民	①意図 (どのようになることを目指すか)	市民が、伊達市の特色ある歴史に触れられるよう各種事業を展開する。						
	初期	②①になるために必要な状態	資料館を通して市民が郷土に誇りを持てるよう各種事業を展開する。								

区分	指標名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度	
				活動指標	企画展開催	件	目標値	3	4	3
指標	活動指標	来場者数	人	目標値	6,500	6,500	6,500	6,500	7,000	7,000
				実績値	5,266	6,684	4,766			
				目標値						
				実績値						

DO (実施)

活動・アウトプット	事業概要	伊達市の歴史に触れる場として各種事業を実施する。 ・伊達市に関連する企画展示及び講演会を開催する。 ・県指定文化財「旧亀岡家住宅」は、明治期の歴史的建造物であり保存管理を継続する。 ・各種講座、ワークショップを開催する。 ・国重要文化財「伊達の蚕種製造及び養蚕・製糸関連用具」の適切な保管を行う。								
	主な活動	令和01年度実績 (実施した主な活動) ・伊達市に関連する企画展示及び講演会を開催する。 企画展「自然を愛する山の詩人 長谷部俊一郎」 企画展「明治の到来と伊達の蚕種業」 企画展「奥州守護所梁川城から桑折西山城へ」 企画展「梁川八幡神社の本殿建築」 ・県指定文化財「旧亀岡家住宅」は、明治期の歴史的建造物であり保存管理を継続する。 ・各種講座、ワークショップを開催する。								

現状把握

現状・インプット	事務事業を開始した理由	保原歴史文化資料館設置に伴い実施されてきた事業となる。合併後は、伊達市の歴史を発信する場として機能している。								
	根拠法令・要綱等	伊達市保原歴史文化資料館事業運営要項	関連する個別計画	伊達市立博物館 (仮称) 整備等基本構想						
	事務事業の現状 (「対象」など事業開始からの変化)	保原町の段階で設置された建物であり、市の施設としては、規模が小さく、市所有の資料等を全て収蔵することは困難となっている。								
	事業費	財源内訳	年度	29年度 (実績)	30年度 (実績)	01年度 (実績)	02年度 (予算)	03年度 (計画)	04年度 (計画)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0		
	都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0		
	その他	千円	750	1,013	743	900	1,200	1,200		
	一般財源	千円	10,312	13,595	11,422	11,331	12,303	12,303		
	事業費計	千円	11,062	14,608	12,165	12,231	13,503	13,503		

事務事業 ID	1473	事務事業名	歴史資料館管理運営事業	所属課	教育委員会教育部生涯学習課
---------	------	-------	-------------	-----	---------------

【CHECK/ACTION（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 (目指すべき状態への進捗度)	近年利用者は、増加傾向にあり、効果は一定程度表れているものと考えられる。しかし、最終目標へ至るには、継続的な事業展開等が必要となるため、展示や各種講座等の事業について質を向上させていく必要がある。
課題	質の高い展示や各種事業を展開するためにも収蔵資料の再整理を実施し更なる活用を図る必要がある。また、収蔵庫の整理を行い収蔵品の適切な管理を進める必要がある。
対策	継続的な収蔵資料の再整理を進める。 古文書講座など各種講座を通して本物の資料に触れる機会等を増加させる。

【評価結果】

総合評価	維持	今後の事業全体の方向性やその内容	本年度は、東日本豪雨及び新型コロナウイルスの影響により来館者数は、減少へと転じた。しかし、展示内容については、養蚕の歴史や梁川八幡宮に関する展示など地元に着目した内容となっており、伊達市でしか実施できない展示となっている。今後も伊達市の歴史的魅力を発信する展示を継続していく必要がある。また、古文書等の歴史資料の整理も進めており、継続した事業展開が必要と考えられる。
------	----	------------------	---

事務事業ID		2175		令和01年度		事務事業マネジメントシート		部長	課長	係長	担当者
事務事業名		美術館自主文化事業		担当課	教育委員会教育部生涯学習課						
政策体系	政策	2	豊かな心を育むまちづくり		担当係	文化振興係					
	施策	4	文化財の保護と芸術文化の振興		事業期間	～					
	基本事業	2	芸術文化活動の推進		事業区分	市単独事業・国県補助事業			市単独事業		
予算科目	会計	款	項	目		実施形態		直営			
		一般会計	10	5	6	大事業		美術館管理運営事業費			

PLAN (計画)

目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	地域固有の歴史的文化的遺産や優れた芸術文化とふれあうことで、ふるさとを愛し、心豊かな生活を送ることができる		
		基本事業の目的	市民の芸術文化に対する関心を高めるとともに、幅広い世代が主体的に芸術文化活動に取り組める環境づくりを推進します。さらに、多様な芸術・文化を魅力ある企画や情報で市民へ広く提供し、あわせて市民文化団体の自主活動を支援します。		
	中間	①対象 (誰、何に対して行うか)	市民	①意図 (どのようになることを目指すか)	芸術文化に触れる機会を市民に提供し、文化意識を高め感性豊かな人づくり、地域づくりを目指す
	初期	②①になるために必要な状態	芸術に関心を持つ市民層の拡大と創作活動の活発化		

区分	指標名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
				アウトプット指標	梁川美術館が主催 (共催) する自主文化事業人数	人	目標値 実績値	6,000 5,822	6,000 8,151
活動指標	梁川美術館が主催 (共催) する自主文化事業件数	件	目標値 実績値	7 8	7 8	8 8	9	9	10
			目標値 実績値						

DO (実施)

活動概要・アウトプット	事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・自主 (共催) 事業の開催 (6回) ・ワークショップの開催 (2回)
	主な活動	令和01年度実績 (実施した主な活動) <ul style="list-style-type: none"> ・橋本広喜展 (福島県の作家) ・村上康成展 (夏休み企画) ・三浦弥平と円谷幸吉展 (オリンピック関連) ・おきあがりこぼしプロジェクト (震災復興) ・共催展 (緑の写真展、世界児童画展) ・ワークショップ (こぼし絵付け) 2回

現状把握

現状・インプット	事務事業を開始した理由	梁川美術館では伊達市合併時まで本格的な自主事業としての企画展は実施されていなかった。しかし、震災を機に精神的な復興支援を目的に本格的な芸術文化事業を開始した。							
	根拠法令・要綱等	関連する個別計画							
	事務事業の現状 (「対象」など事業開始からの変化)	芸術や文化に関心のある市民の割合は他地区と比較して低いとされているが、リピーターの利用者も見受けられるようになった。事業継続により徐々に美術館の認知度もあがり、市民の文化レベルの向上につながっていると考えている。							
	事業費	年度	29年度 (実績)	30年度 (実績)	01年度 (実績)	02年度 (予算)	03年度 (計画)	04年度 (計画)	
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0		
	都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	0	0		
	その他	千円	803	2,217	1,199	0	0		
	一般財源	千円	1,067	61	1,074	0	0		
	事業費計	千円	1,870	2,278	2,273	0	0		

事務事業ID	2175	事務事業名	美術館自主文化事業	所属課	教育委員会教育部生涯学習課
--------	------	-------	-----------	-----	---------------

【CHECK/ACTION（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 (目指すべき状態への進捗度)	10月の台風19号により「三浦弥平と円谷幸吉展」が一時休館、新型コロナウイルス感染症関連により「NHKふくしまの桜フォト写真展」が中止となったが、他の企画展は軒並み好調であった。また、「おきあがりこぼし展」の会期中に「こぼしの絵付けワークショップ」を2回開催し、普段美術館を訪れない親子連れを中心に、多くの市民に美術館を知ってもらうことができた。
課題	美術館は、絵画や銅像といった造形作品のイメージが強いため、一般市民には敷居が高く馴染みがない場所である。そのため、認知度も他施設と比べてまだまだ低い。芸術に関心を持つ市民層を拡大するためには、まず美術館の存在を知ってもらい、足を運んでもらいたくなる企画展・ワークショップを開催していく必要がある。
対策	美術館の敷居を低くするため、誰でも興味をもって気軽に参加できるワークショップを開催する。普段見ることができない展覧会を地方の美術館で開催することにより、心の健康増進と感性豊かな人づくり、地域づくりにつながるため、知名度のある作家の展覧会を年1回程度開催する。地元出身者に焦点を当てる企画展を開催し、ふるさとを愛する心の醸成を図る。

【評価結果】

総合評価	統合	今後の事業全体の方向性やその内容	東日本大震災以降実施してきた自主文化事業が軌道に乗り、継続した事業ができるようになったため、美術館管理運営事業と統合することにした。
------	----	------------------	--

事務事業ID		1459		令和01年度		事務事業マネジメントシート		部長	課長	係長	担当者
事務事業名		ふるさと会館施設運営事業		担当課	教育委員会教育部生涯学習課						
政策体系	政策	2	豊かな心を育むまちづくり		担当係	文化振興係					
	施策	4	文化財の保護と芸術文化の振興		事業期間	～					
	基本事業	2	芸術文化活動の推進		事業区分	市単独事業・国県補助事業			市単独事業		
予算科目	会計	款	項	目		実施形態		直営			
		一般会計	10	5	5	ふるさと会館施設管理費					

PLAN (計画)

目指すべき状態・アウトカム	最終	施策の目的	地域固有の歴史的文化的遺産や優れた芸術文化とふれあうことで、ふるさとを愛し、心豊かな生活を送ることができる								
		基本事業の目的	市民の芸術文化に対する関心を高めるとともに、幅広い世代が主体的に芸術文化活動に取り組める環境づくりを推進します。さらに、多様な芸術・文化を魅力ある企画や情報で市民へ広く提供し、あわせて市民文化団体の自主活動を支援します。								
	中間	①対象 (誰、何に対して行うか)	市民	①意図 (どのようになることを目指すか)	市民の文化意識の高揚						
	初期	②①になるために必要な状態	芸術文化に関心を持つ市民層の拡大と文化事業の展開								

区分	指標名 (意図の達成度を表す指標)	単位	数値区分	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度
				活動指標	自主文化事業件数	件	目標値	5	10
活動指標	施設の利用件数	件	目標値	600	700	800	800	800	800
			実績値	703	657	653			
			目標値						
			実績値						

DO (実施)

活動・アウトプット	事業概要	施設の維持管理を行う。 文化芸術に触れる機会を提供するため、各種事業を実施する。								
	主な活動	令和01年度実績 (実施した主な活動) 宝くじ文化公演事業 「劇団わらび座ミュージカル『ジパング青春記』」の開催。 2階フロアにて「フロアライブ」、「ジャズナイト」、「フロア寄席」の開催。 舞台支援組織「MDDスタッフ」との共催事業の開催。 「MDDスタッフ」を育成し、利用者や市民が行う文化事業の支援。								

現状把握

現状・インプット	事務事業を開始した理由	ふるさと会館の開館に伴い実施されてきた事業である。市内の芸術文化発表の場、市民に芸術文化に触れる機会を提供するための場として機能している。								
	根拠法令・要綱等	伊達市ふるさと会館条例 伊達市ふるさと会館管理規則			関連する個別計画					
	事務事業の現状 (「対象」など事業開始からの変化)	都市の一極集中の流れが加速する中、人口減少、趣味の多様化等も重なり、魅力的な自主事業を開催しても以前のような集客が見込めなくなっている。								
	事業費	財源内訳	年度	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度	
		単位	(実績)	(実績)	(実績)	(予算)	(計画)	(計画)		
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0		
	都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0		
	その他	千円	4,241	4,857	4,050	4,730	4,280	4,280		
	一般財源	千円	19,673	15,643	19,583	22,611	22,611	22,611		
	事業費計	千円	23,914	20,500	23,633	27,341	26,891	26,891		

事務事業 ID	1459	事務事業名	ふるさと会館施設運営事業	所属課	教育委員会教育部生涯学習課
---------	------	-------	--------------	-----	---------------

【CHECK/ACTION（振り返り評価・改革改善策）】

事業の評価 (目指すべき状態への進捗度)	ここ数年実施していなかったプロのミュージカルを開催できたことで、普段会館に足を運ばない層の市民にも来館してもらうことができた。しかし、市民の文化意識の高揚につなげるためには、日頃から質が高く魅力的な事業を継続して実施していく必要がある。
課題	今年度実施したミュージカルは宝くじの助成事業であり、市独自で事業を展開するには限界がある。「MDDスタッフ」の協力によりイベント運営できているが、新入会スタッフの減少や高齢化等により、協力できるスタッフが限られてきている。
対策	様々な助成金を活用し資金確保に努めることで、地方ではあまり見ることのできない質の高い事業の開催を継続し、市民に文化に親しむ場を提供する。 地元の高校部活動(演劇部、放送部等)等と連携し、裏方や舞台管理に興味のある若者を発掘する。

【評価結果】

総合評価	改善・見直し	今後の事業全体の方向性やその内容	民間の活力を導入することにより、多様化する住民ニーズに応えやすくなるため、業務委託や指定管理者制度の導入を視野に入れながら、市民がより一層芸術文化に触れ合う機会を創出できるよう努める。
------	--------	------------------	--